

西要寺だより

第96号 令和2年5月8日



感染者数

死亡者数

その数字の向こうには

一人一人のいのちがある

今私にできること

私のいのちを大切にすること

身近な人のいのちを大切にすること



不安にさいなまれた時は

立ち止まって周りを見てみよう

高速で走り続けていたときには

見えなかったものが見えるかもしれない

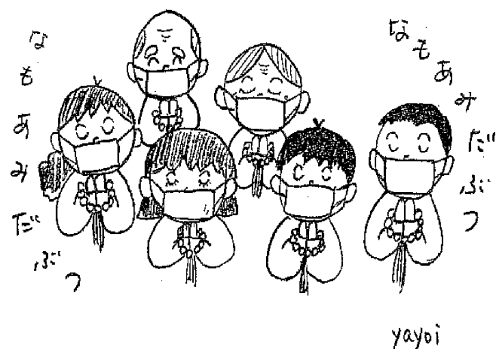
浄土真宗本願寺派総合研究所の研究員の後輩が、今の世の中のことを
思い考えた言葉です。テレビをつけるとコロナ、新聞でもコロナ…。も
うコロナはいらぬ。気をつけなあかんことわかってるわー。ただし少
し物事を考える期間でもあるかな、と思っています。

私は4月10日を最後に京都の研究所には行っておりません。緊急事
態宣言が出たこともあり、自宅待機をしています。といっても自宅で仕
事をしています。自宅待機は5月15日までとなっていますが、緊急事
態宣言が延長されると自宅待機も延びるかもしれませぬ。自宅では、い
つものようにお寺の仕事をしたり、研究所の仕事、龍谷大学の講義（オ
ンライン講義）の準備などを行っているわけですが、京都に行かない、弓
道もできない（体育館が臨時休館）ということもあって、非常に運動不
足になってしまっています。そこでたまに高校生の次女と歩きにいくの
です。すると、いままで見えなかったことが見えてきます。立ち止まっ
てゆっくりと見回すといろいろな発見があります。

また、研究所の後輩たちとオンラインで会話したりもしています（飲
み会ですが）。会議もオンラインで参加しました。いままでしたことが
なかったことをしています。いろいろと新たな発見がありました。

●この時期に法事があっているけれどもどうしたらいいの？

法事にあたっておられる方は皆さん迷われています。どのようにお勤めしたらいいのかと。最近の傾向としましては、近隣に住んでおられる方々で法事をされる家が多いですね。来てもらいにくい遠方の方には、「このような時期ですので、家の者だけでお勤めします。また落ち着いたら、いつでもお参りに来てください」と声を掛けられた方がいいでしょうね。法事当日は、換気をして、なるべく人との距離を置くようにした方がいいでしょうね。なかなかス



ペース的に限界はありますが。

どうしても気になさる方は、お寺の会館や本堂を使っていただいても構いませんので、気軽にお申し出ください。たとえ、少人数であっても差し支えありませんので。

●月参りについて

また、月参りは今まで通りに行っています。私自身も体調を整え、手洗いやうがいを頻繁にして、外に行くときはマスクをし消毒液を携帯して出来るだけ感染しないように注意しております。月参りについては、気になさる方は、お寺の会館や本堂を使っていただいても構いませんので、気軽にお申し出ください。

●お寺の行事について

お寺の行事につきましては、4月22日の定例法座は中止、5月にお勤めする予定だった永代経法要については、7月22日23日に延期とさせていただきます。6月22日の定例法座については今のところ、お勤めする予定ですが、状況によっては中止にするかもしれません。6月初旬頃に判断したいと思います（西要寺の南北の掲示板、西要寺HPでお知らせしますが、西要寺までお問い合わせ下さっても構いません）。また、8月の盂蘭盆会法要については、昨年までは13日～15日の3日間でしたが、今年に限り12日～15日の4日間（いずれも午前11時より）と、1日増やす方向で考えています。また、混雑を避けたいので、原則、事前予約制という方法でお勤めすることを考えています。6月末あたりからご案内をさせていただきます。通常よりも少し早い目の案内となりますが、ご協力のほど、お願い申し上げます。

●新型コロナウイルス感染症に関する「念仏者」としての声明 (本山より)

現在、新型コロナウイルス感染症は世界中に拡がり、収束する気配を見せていません。日本でも緊急事態宣言が発令されるなど、状況は新たな段階に入っています。

まず、このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた国内外の多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申しあげます。さらに、特に高い感染リスクにさらされながらも、懸命に治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々に深く敬意と感謝を表します。

こうした危機的な状況において、世界中の人びとが共に力を合わせ、励まし合って対応しています。しかし、症状が出ないために感染に気づいていない人の行動が、感染拡大の一因となっている場合もあるのではないかと指摘されています。感染症の危険性や対処法を正しく理解し、実行するとともに、差別や偏見が拡がらないよう、一人ひとりがお互いを思いやり、注意深く行動していきたいと願っております。

釈尊(しゃくそん)が明らかにされた苦しみの根源である無明煩惱(むみょうぼんのう)、また親鸞聖人(しんらんしょうにん)が「煩惱具足(ぼんのうぐそく)の凡夫(ぼんぷ)」という言葉でお示しになった私たち人間の根本に潜む自己中心性に思いをいたし、このような時にこそ、人と喜びや悲しみを分かち合う生き方が大切ではないでしょうか。仏教には、「あらゆるものは因縁(いんねん)によりつながり合って存在しており、固定した実体はない」という「縁起(えんぎ)」の思想があります。新型コロナウイルスの感染拡大の原因は人との接触であるとされ、本来大切な人との「つながり」が、今は安心感ではなく、不安をもたらすものとなってしまっています。しかし、「つながり」を表面的に捉え、危険なものとする否定的に考えてはなりません。世界的な感染大流行という危機に直面する今だからこそ、私たちは仏教が説く「つながり」の本来的な意味とその大切さに気づいていく必要があります。

今重要なことは、仏智(ぶっち)に教え導かれ、仏さまの大きな慈悲(じひ)のはたらきの中、共に協力し合って生きる大切さをあらためて認識し、感染拡大をくい止めることです。緊急事態宣言がコロナ危機を克服してくれるわけではありません。この困難を打開できるか否かは、多くの関係者のご尽力とともに、私たち一人ひとりの徹底した適切な行動にかかっています。

私という存在は、世界の人びととの「つながり」の中で生きているか

らこそ、やがて、共にこの苦難を乗り越えた時、世界中の人びとと喜びを分かち合えることでしょう。それぞれの立場において、この難局で法灯(ほうとう)や伝統を絶やさないために何ができるかを考え、「そのまま救いとる」とはたらいてくださるお念仏の心をいよいよいただき、共に支え合い、力を合わせるのです。誰もが安心して生活できる社会を取りもどすことができるよう、精いっぱいにつとめを果たしてまいりましょう。

2020(令和2)年4月14日 浄土真宗本願寺派総長 石上 智康

●住職の今年度の予定(再掲)

以前にも書きましたが、今年4月から、毎週金曜日に龍谷大学(瀬田)の講義を担当しております。午前11時からの講義ですが、コロナウイルスの影響でインターネットを介してのオンライン講義になりました。従いまして、いままで通り、お参りに伺うことが出来ますので、宜しくお願い致します。ただし、9月以降は教室授業になる可能性もあります。

◎今後の西要寺行事予定◎

【定例法座】

4月22日(水) 休止

【永代経法要】

5月→7月22日23日に延期

【定例法座】

6月22日(月) 午後2時より4時頃まで

講師：佐々木 義英 師(浄土真宗本願寺派総合研究所 室長)

※なお、周辺の状況(コロナ)により中止する可能性もあります。

6月上旬頃に判断します。

【永代経法要】

7月22日(水)～23日(木・祝)

午後2時より午後4時頃(予定)まで

講師：谷川 弘顕 師(本願寺派布教使、神戸 高松寺 前住職)

場所：西要寺本堂(椅子席)